

**第2次瑞浪市人権施策推進指針(後期) (素案)への意見等**

頁	分野等	ご意見・ご質問	対応
1 14	共通項目	「よく生き合う力」の用語解説を入れたほうがいいのではないか。	『よく生き合う力「人権感覚を大切にしてお互いに生きていく力」を表現した本指針における造語。「生き合う」とは、相手とまっすぐに向き合い、お互い支え励まし合って生きていくことを形容している。』と記載します。
2 15	女性	女性の人権は尊重すべきだが、現代社会において女性にも「男性に任せておけば」「女性がやらなくても」という偏見にも似た意識があることを感じる。これは課題にはならないだろうか。	市民意識調査のアンケート結果において、女性の人権問題で特に問題があると思うことについて、『「男性は仕事、女性は家庭」など、性別による固定的な役割分担意識があること』や『役員や伝統行事への女性の参加制限といった習慣やしきたりが地域に残っていること』の割合が年々増加していることから、男女の役割を固定的にとらえる意識が社会的に根強く残っていると認識していますので、下記のとおり記載します。 「まだまだ男女の役割を固定的にとらえる意識が社会的に根強く残っていると認識しています。そのため、子どもの頃から、学校や地域、家庭などにおいて、男女共同参画やジェンダー平等の重要性を伝える啓発活動に取り組み、性別に関わらず誰もが望む暮らしができる社会への実現へつなげていくことが必要です。」
3 19	女性	具体的事業の「女性の暴力被害に対する支援の充実」に「情報を共有するすべての課に対し、情報漏えいすることができないよう注意喚起していきます。」とあるが、情報は一旦漏えいしてしまうと情報を取り消すことはほぼ不可能であるため、「注意喚起」ではなく、「情報漏えい防止対策の徹底」としたほうがいいのではないか。	「情報を共有するすべての課に対し、情報漏えい防止対策の徹底をします。」と記載します。
4 23	子ども	「デジタルシティズンシップ教育」の用語解説を入れたほうがいいのではないか。	「デジタル技術の利用を通じて社会に積極的に関与し、責任ある行動を取る能力や態度を育む教育」と記載します。
5 23	子ども	「市民が取り組むこと」の最後、「大人自身も支援を受け入れられる姿勢をもちます」がやや回りくどい表現のように思います。「大人自身も謙虚に子育てに取り組み、積極的に支援やアドバイスを求めます」のようにしてみてはどうか。	「大人も積極的に支援やアドバイスを求めます」と記載します。
6 32	子ども	具体的事業の「安全な子どもの遊び場の確保」に「安全基準に満たない遊具は早急に修繕します」を「安全基準に満たない遊具は即時使用中止とし、早急に修繕します。」としたほうが、安全に配慮しているのではないか。	「安全基準に満たない遊具は即時使用中止とし、早急に修繕します。」と記載します。
7 35	高齢者	最後から2行目「高齢者に対して敬意を払うとともに」とさらっと書かれているが、ここが最も重要ではないか。敬意を払っていないから高齢者の人権がないがしろにされているのではないか。	高齢者に対して敬意を払うことは、高齢者の人権を大切にすることと同義であると考えられますが、人権を大切にするための取り組みの一つとして、4段落目に「人権啓発・人権教育の取り組みを進める」と記載しているため、5段落目を次のように修正します。 「また、高齢者が生き生きと暮らせるよう、能力やその経験を活かした就労やボランティアの機会等を充実させるなど、その豊富な経験や知識を最大限に活かせるような取り組みが必要です。」と記載します。

8	46	障がい者	「行政（市）が取り組むこと」の最後の〇の項目「園・学校・家庭が連携し」とあるが、障がいがある者に対する差別や偏見は教育によって若い世代から解消する必要があると、教育現場にいた者として強く感じている。市の教育としてそれが十分施されているか。現場の教員の意識も疑わしいと思える部分がある。	若い世代から差別や偏見を解消する必要があるのはおっしゃる通りで、ゆえに園や学校・家庭と連携を図りながら、教職員も含めて人権教育をさらに推進してまいります。
9	53	部落差別	「行政（市）が取り組むこと」の中の三つ目の〇の項目「市民が偏見を思い込みに気づき」の表現はおかしいのではないか。「偏見が思い込みだと気づき」「偏見や思い込みに気づき」ではないか。	「偏見や思い込みに気づき」と記載します。
10	55	外国人	現実問題として、知らないうちに外国人が多くなっていることに気づく場合が多い。日本にやってくる外国人に対する支援は増えているようだが、彼らを受け入れる住民への支援はほとんどない状態である。国際理解を掲げるなら、いつ・どこに・どんな外国人が居住し始めたのかを何らかの方法で具体的に知らせる必要はないのだろうか。見知らぬ外国人の姿を見ることで地元住民が不安を抱いていることが現実にある。	市民の方に外国人の居住状況をお知らせすることは個人情報保護の関係もあり難しいですが、現状と課題にも記載のあるとおり、国際化の進展により、異なる文化、習慣及び価値観を互いに認識し、尊重し合える意識を育んでいくことが重要であると認識しております。地元住民の方と外国人の方が日常的に交流を深めることで、お互いに不安を解消できるのではないかと考えております。お互いの多様性を認め合い、外国人に対する偏見や差別をなくすための取り組みを推進していきます。

訂正1

6	33	子ども	具体的事業の「安全な子どもの遊び場の確保」に「安全基準に満たない遊具は早急に修繕します」を「安全基準に満たない遊具は即時使用中止とし、早急に修繕します。」としたほうが、安全に配慮しているのではないか。とご意見をいただきましたので、「安全基準に満たない遊具は即時使用中止とし、早急に修繕します。」と修正させていただいたのですが、この事業と次のページの一番上、「各保育園・認定こども園の園庭を地域などに開放します。」の事業については、P33にあります「安全な子どもの遊び場の確保」の事業内容と同じであるため、この2つの事業は削除します。そして、P33の下から2つ目の事業について、委員さんよりご意見をいただいたとおり、「安全基準に満たない遊具は早急に修繕します」を「安全基準に満たない遊具は即時使用中止とし、早急に修繕します。」と修正します。
---	----	-----	---